

## 課題 6 . 国際母子保健医療活動

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	1. 国際協力事業団中部国際センター (JICA) 事業 「平成 15 年度国別特設 地域母子保健コース研修」実施 平成 15 年 10 月 6 日 (月) ~ 11 月 9 日 (日) 研修生 8 名 2. 平成 15 年度ポリビア国及びホンジュラス国カウンターパート研修員の研修 平成 15 年 11 月 4 日 (火) 研修生 6 名

### 教育研修 ( 1 ) 「平成 15 年度国別特設 地域母子保健コース研修」

実施期間	平成 15 年 10 月 6 日 (月) から 11 月 9 日 (日)
対象者 (研修生)	8 名 (ナイジェリア 3 名、タンザニア 5 名)
研修内容	<p>国際協力事業団中部国際センターでは、平成 13 年度地域母子保健教育コースを新規に設立、今年度は第 3 回目。当センターはプログラム立案・研修評価等技術協力、会場設営、連絡調整等をしている。</p> <p>基本的なコンセプト：日本の最先端の技術、現在の保健行政システムの紹介のみならず、日本が短期間に母子保健指標を改善してきた歴史、その要因、プロセスを紹介、指導することに重点を置く。</p> <p>プロジェクトサイクルマネージメントの基礎的概要、ジョブレポート発表会            基礎講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の衛生行政とその歴史、日本の医療制度・世界の公衆衛生の流れ              リプロダクティブヘルスと開発</li> </ul> <p>母子保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健所と市町村保健センターの役割・母子保健と統計学</li> <li>周産期保健 (周産期ネットワークシステム、日本の助産院の役割、地域産婦人科医の役割、母子保健と母子健康手帳、日本におけるエイズの状況、母子保健に関わる国際協力の実際)</li> <li>小児保健 (新生児の医療、乳児健診の方法と健診マニュアル、小児保健における保健師の役割、口腔衛生と小児保健、日本における小児歯科、予防接種の歴史と背景、小児の感染症、日本の小児保健)</li> </ul> <p>環境衛生・食品衛生、上下水道の果たす役割、感染症サーベイランス            学校保健・日本の学校保健制度とその歴史、学校検診システム、学校医について            給食の役割とその歴史、学校心臓検診、学校給食の現場</p> <p>スケジュール詳細は別紙</p>

Schedule of Maternal and Child Health Program in Nagoya Fiscal 2003		講演者または責任者	講演者または責任者	講演者または責任者
月	AM(9:30-12:30)	(JICA)	(JICA)	(JICA)
Oct. 6	project cycle management			PM(14:00-17:00)
Oct. 7	カントルレポート(11:00)準備	(ACHEMEC)		Project cycle management
Oct. 8	カントルレポート(11:00)	長嶋、山崎(小児C)、JICA、参加可能な方		Orientation and AICHEC
Oct. 9	日本の衛生行政とその歴史	田邊稔(金城大学)		カントルレポート
Oct. 10	母子保健と統計学	高尾 克(名大)		日本の医療保険制度
Oct. 11				小児保健における保健婦の役割
Oct. 12				
Oct. 13				
Oct. 14	保健所や市町村保健センターの役割	加藤昌弘(知多保健所)		乳児検診の方法と検診マニュアル
Oct. 15	学校心臓検診	長嶋正實(小児C)		小児の感染症
Oct. 16	給食の役割とその歴史	大野香代子(愛知県教育委員会健康学習課長)		学校給食の現場(試食と見学)
Oct. 17	世界の公衆衛生の流れ	青山温子(名大)		母子保健に関わる国際協力の実際
Oct. 18				
Oct. 19				
Oct. 20	日本の学校保健制度とその歴史、(養護教諭を含む)	名古屋教育委員会		学校医について
Oct. 21	母子保健と母子手帳	中村安秀(阪大)		各国の保健センターの役割(討論)
Oct. 22	日本の助産院の役割	助産婦会		助産院の見学
Oct. 23	地域の産婦人科医の役割	今井信昭		地域の産婦人科医の役割
Oct. 24	研修旅行(家族計画協会JICFP)			
Oct. 25				
Oct. 26				
Oct. 27	食品衛生(愛知県北都市場見学)	佐藤猛雄(食品衛生検査所所長)		食品衛生検査所所長佐藤猛雄 現場へ出張
Oct. 28	子防接種の歴史と背景	健康福祉部生活衛生課長三澤高明		食品衛生検査所所長佐藤猛雄 現場へ出張
Oct. 29	日本におけるエイズ状況	神谷 育, 中野貴司(三重H)		神谷 育, 中野貴司(三重H)
Oct. 30	感染症サーベイランス	戸谷良造(国立名古屋H)		浜口元洋(国立名古屋病院臨床疫学部長)
Oct. 31	周産期ネットワークシステム	宮崎 豊(愛知県衛生研所所長)		宮崎 豊(愛知県衛生研)
Nov. 1	アクションプラン準備	石川 薫(第一日赤H産科)		鈴木千鶴子(第一日赤H小児科)
Nov. 2		松林信幸、長嶋正實		松林信幸、長嶋正實
Nov. 3				
Nov. 4	保健所や市町村センターの見学(足助保健所)	坂本真理子(愛知医大)		坂本真理子(愛知医大)
Nov. 5	口腔衛生と小児保健	愛知県歯科医師会 河合良明		愛知学院歯学部
Nov. 6	日本の小児保健	山崎嘉久(小児C)		大府看護学校校長(校長先生は変わっている)
Nov. 7	ファイナルレポート自主作成			
Nov. 8				
Nov. 9	ファイナルレポート発表会	出席可能な人すべて		出席可能な人すべて

## 実施活動項目ごとの評価：国際母子保健活動

<p>評価の方法・手段</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外専門家との人的交流・派遣に関する定量的評価</li> <li>2. 情報利用者数の測定</li> <li>3. 相談件数とその内容の調査</li> <li>4. 地域特設「地域母子保健」コースのクエスチョネアでの評価</li> </ol>
<p>評価の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有用性 <p>国際母子保健医療活動では、「平成 15 年度国別特設 地域母子保健コース研修」を平成 13 年度から実施し 3 年目を迎えた。1・2 年目の経験を生かし、実施時期、研修内容の検討などを行い開催した。今年度はアフリカの 2 カ国から 8 名が参加した。参加国が 2 カ国だからか、研修生同士のまとまりがあった。</p> <p>オリエンテーションで本研修のコンセプトを理解してもらうことが、有意義な研修につながる。</p> <p>アクションプランに結びつけるために、初日に実施している project cycle management は有用である。</p> </li> <li>2. 問題点 <p>「平成 14 年度地域母子保健コース研修」は、国際協力事業団中部国際センター（JICA）との協力事業であり、国際的な母子保健への貢献という大きな意味はあるが、当センターにおける外国人利用者への対応としては、まだまだ成されてない状況である。</p> </li> <li>3. 事業継続に関する意見 <p>国際協力事業団中部国際センター（JICA）の実施事業に引き続き協力する。</p> </li> </ol>